The Japan Society of Plasma Science and Nuclear Fusion Research

編集後記

いわゆる「吊り橋効果」の効用は恋愛にとどまらないようです．

先日「核融合関連原子分子PMIデータの評価検証」なる会議に出席した折り，現地人抜き国籍バラバラの男5人で郷土料理店を訪れました．ホテルのフロントで聞き出したその名店では英語は通じず，我々は現地語を話せません．私以外の西欧人達は，本当は現地食に食傷気味だったのを，最終日ということで初対面の日本人の誘いに応じたようです．「こんにちは」程度の現地語とそれぞれの得意技を駆使し，何とか食事を注文した我々の前に運ばれたのは，韓国大田郷土料理（1993年指定）の参鶏湯（サムゲタン）でした．皆の表情が不安から期待，そして満足へと変わるのがわかります．お決まりの食後の議論では，各自が今夜果たした役割と努力を評価しあったあげく，会議テーマについても「理論実験問わず，知らない国で一緒に食事すればその人のデータの信頼性は検証可能」との非公式な結論を得ました．

さて，福島でのボランティア除染には，少なからぬ現役OB理工学研究者が参加しています．初期の頃には，被災された方から除染あるいは研究者への醒めた視線も一部ながら感じられましたが，現在では皆さん作業に参加され，放射線計測や生物影響，農作物への移行など積極的に問いかけてこられます．そこにはマスコミ報道やネットに見受けられる疑いや批判はなく，信頼にもとづいたコミュニケーションが成立しているとの確信を持つことができます．除染にはマニュアル外のその場での対応を求められる場面も多く，協力して問題解決する過程で信頼が醸成され，作業後も継続することを改めて感じます．

市町村主体での除染地域では，業者による除染も進捗しボランティア除染は縮小しつつありますが，国が担当する飯舘村では未だ調査計画段階で，住民と支援NPO法人の自主的活動にとどまっています．20キロ圏内を含めすべての希望者が，3年後といわず一日も早く帰宅できるよう祈念します．

（今井　誠）

プラズマ・核融合学会役員

会　長 小川　雄一　**副会長** 斧　髙一　二宮　博正（推薦委員長）　**常務理事** 西村　新（総務委員長）

理　事 疇地　宏　安藤　晃　石原　修（研究部会連絡委員長）
上杉　喜彦　甲斐　俊也　小森　彰夫（支部・地区研究連絡会委員長）
坂本　慶司（広報委員長）　清水　克祐（財務委員長）　白谷　正治（年会運営委員長）
永津　雅章（企画委員長）　福山　淳　堀池　寛
山崎　耕造　米田　仁紀（編集委員長）

監　事 市村　真　中澤　一郎

プラズマ・核融合学会誌編集委員会

編集委員長・チーフエディタ：米田仁紀（電通大）　**副委員長**：上杉喜彦（金沢大）

エディタ：安藤　晃（東北大），坂本瑞樹（筑波大），中村祐司（京大），村上匡且（阪大），室賀健夫（核融合研），佐々木浩一（北大）

編集委員：石田　學（JAXA），伊藤剛仁（阪大），井　通暁（東大），今井　誠（京大），岩本晃史（核融合研），大場恭子（東工大），岡本　敦（東北大），梶村好宏（明石高専），菊池崇志（長岡技科大），古賀麻由子（兵庫県立大），佐々木　明（原子力機構），佐竹真介（核融合研），佐藤正泰（原子力機構），杉山貴彦（名大），高橋和生（京都工繊大），田中将裕（核融合研），土屋文（名城大），成嶋吉朗（核融合研），長谷川裕記（核融合研），廣瀬貴規（原子力機構），福山隆雄（愛媛大），藤澤彰英（九大応力研），松浦寛人（大阪府立大），村中崇信（中京大），籔内俊毅（阪大），山田英明（産総研），山家清之（新潟大）

乱丁・落丁本は，ご面倒ですが学会編集委員会宛ご送付ください．送料当方負担にてお取り替えいたします．

プラズマ・核融合学会誌第88巻第10号

編集・発行
〒464-0075 名古屋市千種区内山3丁目1-1　4階
一般社団法人 プラズマ・核融合学会 編集委員会
Tel. 052-735-3185　Fax. 052-735-3485
E-mail: plasma@jspf.or.jp　URL: http://www.jspf.or.jp/

印　刷　株式会社荒川印刷
2012年（平成24年）10月25日
定価1,365円（本体1,300円）

本誌に掲載された寄稿等の著作権は一般社団法人プラズマ・核融合学会が所有しています．

NII-Electronic Library Service